

令和7年度 事業所における自己評価総括表（ドットジュニア 浜野 第2教室（放課後等デイサービス・児童発達支援））

子ども家庭庁が定める「放課後等デイサービスガイドライン」「児童発達支援ガイドライン」に基づいて、さらに強化・充実を図るべき点（事業所の強み）や、課題や改善すべき点を整理・分析しています。この自己評価総括表をもとに、業務・サービスの資質向上や改善をしていくことを目的としています。

<保護者アンケート調査時期：R7/11/17~R7/12/5> <職員アンケート調査及び検討時期：R7/11/17~R7/11/25>

強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
<ul style="list-style-type: none"> ・事業所は開所から5年を迎えることができ、保護者様・各関係機関とも情報共有や連携が取れている。 ・職場環境について、支援内容についての振り返りが日々行えていて、課題や意見についても出しやすい環境だとクルーが感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資質向上のための研修が年内に数回計画されており、定期的に学ぶ機会が設けられています。 ・日々の保護者様との日常の連絡だけではなく、ご要望・ご意見についても傾聴ししっかりと対応しています。また個別支援計画へ反映されていて支援が実施できています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで積み上げてきたことを崩すことの無いよう、日々行うべきことを着実に取り組みます。
<ul style="list-style-type: none"> ・お子様の発達段階や特性を把握し、配慮した支援ができています。 ・活動の目的やねらいを意識したプログラムを作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子様一人一人の発達段階を把握し、今必要な支援は何かを考えて支援を実施しています。またそのことについて職員間で共有ができています。 ・ドットジュニアにおける「5つの療育クラス」に基づき、毎月クルー全員でプログラム案を出し合い、お子様が楽しく参加できる内容を実施できるように工夫しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムについては、お子様から人気があり、楽しみにもしているお出かけやおやつ作りなどのプログラムを多く取り入れることができるように考えていきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・安全計画に沿って、研修が実施されている ・災害時に備えた避難訓練が実施されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練は毎月1回、集団療育プログラムにおいて実施しており、災害に備えて定期的に行っています。 ・けが対応フローチャートに基づき、どの職員であってもすぐに報告・連絡・相談が行える体制を整えています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点で使用しているマニュアル等を周知し、安全面の向上に繋がっていきます。

<p>弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること</p>	<p>拠点として考えている課題の要因等</p>	<p>改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・児童の特性や相性を考慮してあげたほうが児童にとって居心地の良い環境になるのではないかと思います。 ・要担当児童が多いと全体把握できる職員が不足してしまう印象です。また、プログラムを難易度を分けて進行したい際に職員の手が足りないと感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児童のうち小学校低学年が大半であることから、低学年向けのプログラムを実施することが多い。そのため、小学校高学年以上の児童に向けてはプログラム内容の配慮が足りないこともあった 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの進行を児童の発達段階別に分けたり、グループ活動では職員配置を考慮しながら支援に努めています。
<ul style="list-style-type: none"> ・お子様に分かりやすく（構造化）、安心して過ごせる環境（物理的・心理的）が整っていない <p>マンパワーが不足しているため、支援計画に記載してある部分をフォローできないことも多いように感じます</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援室が1箇所しかないため、クールダウンできる場所の確保が取れていない。 ・児童の個別課題を明確にできていないため、計画書の目標に曖昧な部分がありながら支援していることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談室の造作を検討していたり、テントを使用することでクールダウンの場所を提供しています。今後も児童の状態を把握しどの場面でクールダウンが必要かを周知し、相談室を有効に活用できるようにしていきます。 ・業務日誌に児童の個別課題を明確にすることで、支援内容が分かりやすく職員にとっても何を支援していくのか明確になるため、今後活用していきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校ではなく家庭からの予定表連絡のため、ぬけもれがあることがあります。 ・避難訓練等に参加できていないお子さん・職員もいるため、非常時に不安になってしまうと感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お迎え時間の変更は基本的に『保護者から』としているので、急な学校の変更に対応できないこともある。保護者へ時間変更の際は、分かった時点で連絡をしていただくよう依頼しているが定着できていない ・年2回の避難訓練では、参加できていない児童や職員も出てしまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校とも連絡が取れるような関係づくりを行っていきたくです。 ・週1日利用の児童もいるため、年間通して計6回行います。2か月に1回曜日別に取り組んでいき、どの曜日に利用していても避難訓練が経験できるように努めます。